

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	2019年8月14日
【四半期会計期間】	第20期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	株式会社アイフリークモバイル
【英訳名】	I-FREEK MOBILE INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 上原 彩美
【本店の所在の場所】	福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目5番28号
【電話番号】	092（471）5211（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部長 三宅 公崇
【最寄りの連絡場所】	福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目5番28号
【電話番号】	092（471）5211（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部長 三宅 公崇
【縦覧に供する場所】	株式会社アイフリークモバイル 東京支店 （東京都新宿区新宿二丁目1番11号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第1四半期連結 累計期間	第20期 第1四半期連結 累計期間	第19期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	239,397	318,506	1,187,480
経常損失 ( ) (千円)	20,761	43,612	355,071
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 ( ) (千円)	21,588	42,811	477,167
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	22,745	42,811	472,783
純資産額 (千円)	832,887	340,413	382,927
総資産額 (千円)	1,092,169	648,834	699,339
1株当たり四半期(当期)純損失 ( ) (円)	1.41	2.67	30.12
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	75.6	51.7	53.7

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、2019年5月1日付けで、株式会社アイフリークスマイルズを存続会社とする吸収合併方式により、株式会社アイフリークスマイルズと株式会社フリーが合併しております。これにより、当第1四半期連結会計期間より株式会社フリーは、連結の範囲から除外しております。

また、当第1四半期連結累計期間より、セグメント名称及び開示区分の変更を行っております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続き、緩やかな回復基調にて推移しております。一方で米中貿易摩擦等の海外経済の不確実性の高まり、金融資本市場の変動などの懸念等により、先行きの不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、弊社の事業、強みを集結し、更なる収益性向上に向けて、今まで培ったコンテンツ事業のノウハウを活用した、チャットにウォレット機能を搭載したアプリChallet（チャレット）を主軸とした事業に注力し、ソリューションの展開、新サービスの発表等施策を進めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は318,506千円（前年同四半期比33.0%増）、営業損失は50,607千円（前年同四半期は20,647千円の営業損失）、経常損失は43,612千円（前年同四半期は20,761千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は42,811千円（前年同四半期は21,588千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、セグメント名称及び開示区分を変更しております。

#### < コンテンツ事業 >

コンテンツ事業におきましては、開発しましたチャットにウォレット機能を搭載したアプリ『Challet』の展開に引き続き注力いたしました。企業の要望に応じてChalletをカスタマイズし提供する「チャレットソリューション」は、第1弾「ROBOT MART CHALLET」iOS版や、続く第2弾「Wearable Challet」のiOS・android版、第3弾「未来メディアChallet」のandroid版をそれぞれ配信いたしました。また、新サービスとして、決裁承認チャット機能を搭載したビジネスコミュニケーション促進ツール「Challet for business」を発表し、新規顧客獲得のための施策を行いました。

『デココレ』『photodeco+』では引き続き有名ライセンスとのコラボレーションを行い、新規・継続利用促進施策をいたしました。販路拡大の取り組みの一貫として、当社オリジナルキャラクター「ばんだっち」のTシャツ販売や「デザインフェスタvol.49」への出展を行い、当社事業への認知度の向上を図りました。

『森のえほん館』『なないろえほんの国』（電子絵本）では、毎週交互に1冊ずつバラエティ豊かな新作絵本の配信を行いました。『なないろえほんの国』では大幅なアップデートを実施し、語学学習の促進や学習の継続につながる機能を追加いたしました。子育てサポートアプリ「Ghost Call～鬼から電話DX～」とのキャラクター連携は『なないろえほんの国』のキャラクター「ナビくん」とのコラボレーション第2弾を実施し、相互送客施策を行いました。

これらの結果、コンテンツ事業の売上高は94,700千円（前年同四半期比31.2%増）、セグメント利益は3,435千円（前年同四半期比76.9%減）となりました。

#### < コンテンツクリエイターサービス（CCS）事業 >

CCS事業におきましては、慢性的なIT人材不足を背景に引き続き需要は旺盛であるものの、クリエイタースタッフの採用難易度は依然として高い状況が続いております。これに対応するため、「ブロックチェーン」「ロボティクス」など具体的なキーワードを設定して応募数の増加や求職者とのマッチング率の向上を図りました。スタッフの増員等の施策も行い、採用体制強化につなげることができました。また、クリエイタースタッフの育成のため、技術向上・育成に注力し、専門講師による研修など教育体制の強化を引き続き進めてまいりました。

これらの結果、CCS事業の売上高は223,806千円（前年同四半期比33.8%増）、セグメント利益は404千円（前年同四半期比97.5%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

流動資産は、前連結会計年度末に比べて52,604千円（7.9%）減少し、617,009千円となりました。これは主として、仕掛品が14,018千円増加する一方、現金及び預金が11,488千円、売掛金が33,594千円、未収入金が25,354千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて2,099千円（7.1%）増加し、31,825千円となりました。これは主として、有形固定資産が2,529千円増加したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて50,504千円（7.2%）減少し、648,834千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて3,618千円（1.2%）減少し、303,180千円となりました。これは主として、未払費用が9,827千円、資産除去債務が4,377千円増加する一方、未払金が25,818千円、未払法人税等が5,971千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて4,372千円（45.5%）減少し、5,240千円となりました。これは主として、資産除去債務が4,377千円流動負債に振替えられたことによるものであります。

以上の結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて7,990千円（2.5%）減少し、308,420千円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて42,513千円（11.1%）減少し、340,413千円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純損失を42,811千円計上したことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において実施した研究開発活動はありません。

今後におきましては、当社の企業価値の向上に高い効果をもたらすサービスの研究開発、新技術への対応を行ってまいります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,336,000
計	36,336,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年8月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	16,040,700	16,040,700	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	16,040,700	16,040,700	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2019年4月1日~ 2019年6月30日 (注)	18,500	16,040,700	1,176	1,059,775	1,176	1,049,775

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,020,700	160,207	-
単元未満株式	普通株式 1,200	-	-
発行済株式総数	16,022,200	-	-
総株主の議決権	-	160,207	-

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アイフリークモバイル	福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目5番28号	300	-	300	0.01
計	-	300	-	300	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	383,093	371,605
売掛金	237,768	204,174
仕掛品	8,522	22,541
前払費用	14,496	18,614
未収入金	25,938	584
貸倒引当金	207	511
流動資産合計	669,613	617,009
固定資産		
有形固定資産	390	2,919
投資その他の資産	29,334	28,905
固定資産合計	29,725	31,825
資産合計	699,339	648,834
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	13,176	10,000
短期借入金	100,000	100,000
未払金	73,698	47,879
預り金	13,739	15,290
未払費用	79,652	89,479
資産除去債務	-	4,377
未払法人税等	10,872	4,901
未払消費税等	13,308	13,094
その他	2,352	18,157
流動負債合計	306,798	303,180
固定負債		
繰延税金負債	2,089	2,089
資産除去債務	7,522	3,150
固定負債合計	9,612	5,240
負債合計	316,411	308,420
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,058,598	1,059,775
資本剰余金	1,058,604	1,059,780
利益剰余金	1,741,371	1,784,182
自己株式	34	34
株主資本合計	375,797	335,338
新株予約権	7,130	5,075
純資産合計	382,927	340,413
負債純資産合計	699,339	648,834

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	239,397	318,506
売上原価	159,730	224,351
売上総利益	79,667	94,154
販売費及び一般管理費	100,314	144,761
営業損失( )	20,647	50,607
営業外収益		
貸倒引当金戻入額	63	-
業務受託料	-	330
保険解約返戻金	-	6,080
その他	125	1,318
営業外収益合計	189	7,728
営業外費用		
支払利息	277	277
為替差損	-	241
その他	25	216
営業外費用合計	302	734
経常損失( )	20,761	43,612
特別利益		
新株予約権戻入益	-	1,959
特別利益合計	-	1,959
税金等調整前四半期純損失( )	20,761	41,653
法人税、住民税及び事業税	854	1,158
法人税等調整額	27	-
法人税等合計	827	1,158
四半期純損失( )	21,588	42,811
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	21,588	42,811

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純損失( )	21,588	42,811
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,157	-
その他の包括利益合計	1,157	-
四半期包括利益	22,745	42,811
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	22,745	42,811

【注記事項】

(連結の範囲の重要な変更)

2019年5月1日付けで、連結子会社であった株式会社フリーは、連結子会社である株式会社アイフリークスマイルズを存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	3,350千円	249千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

当社は、2018年4月16日を払込期日とする第三者割当による新株式の発行により、当第1四半期連結累計期間において、資本金及び資本剰余金がそれぞれ121,600千円増加しております。

また、新株予約権の権利行使による新株式発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ100,911千円増加しております。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間末において資本金は1,058,490千円、資本剰余金は1,058,496千円となっております。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)3
	コンテンツ事業	コンテンツクリエイターサービス事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	72,152	167,244	239,397	-	239,397	-	239,397
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	72,152	167,244	239,397	-	239,397	-	239,397
セグメント利益	14,861	16,114	30,975	1,926	29,049	49,696	20,647

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、I P事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)2	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)3
	コンテンツ事業	コンテンツクリエイターサービス事業			
売上高					
外部顧客への売上高	94,700	223,806	318,506	-	318,506
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	94,700	223,806	318,506	-	318,506
セグメント利益	3,435	404	3,840	54,447	50,607

(注)1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度においてI P事業から撤退したため、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメント「I P事業」を廃止しております。

また、当第1四半期連結会計期間より、従来「モバイルコンテンツ事業」としていた報告セグメントの名称を、モバイルコンテンツに限らず多様なコンテンツへの取り組みを実施するため「コンテンツ事業」に変更しております。なお、この名称はセグメント名称の変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。また、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの名称で記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

1. 取引の概要

(1) 結合当時企業の名称及びその事業の内容

結合企業

名称：株式会社アイフリークスマイルズ(当社の連結子会社)

事業の内容：コンテンツクリエイターサービス事業

被結合企業

名称：株式会社フリー(当社の連結子会社)

事業の内容：コンテンツ事業

(2) 企業結合日

2019年5月1日

(3) 企業結合の法的形式

株式会社アイフリークスマイルズを存続会社、株式会社フリーを消滅会社とする吸収合併。

(4) 結合後企業の名称

株式会社アイフリークスマイルズ

(5) その他取引の概要に関する事項

女性を主体として経営する両社の特徴を生かし、多様化する女性の働き方に対応すべく、意思決定の迅速化、経営効率を図ることを目的とし、本合併を決定いたしました。

また、当社の100%子会社同士の合併であるため、合併による株式または金銭等の割当てはありません。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純損失( )	1円41銭	2円67銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (千円)	21,588	42,811
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	21,588	42,811
普通株式の期中平均株式数(株)	15,303,380	16,033,838
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月13日

株式会社アイフリークモバイル  
取締役会 御中

### 監査法人アヴァンティア

指 定 社 員 公認会計士 木 村 直 人  
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 藤 田 憲 三  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイフリークモバイルの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイフリークモバイル及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。